

令和2年4月30日

大阪府教育委員会
教育長 酒井 隆行 様

少年自然の家共同事業体 代表者
533-0033
大阪市東淀川区東中島1-20-14
公益財団法人 大阪ユースホステル協会
会 長 平 岡 龍 人

令和元年度大阪府立少年自然の家の事業報告書の提出について

大阪府立少年自然の家基本協定書第7条の規定により下記のとおり報告します。

記

1. 主なとりくみについて
2. 事業実績について
3. 収入実績について
4. 損益計算書
5. その他の実績について
6. 利用者満足度について
7. 事故・苦情処理について
8. 利用実績について
9. サービスの安定性評価
10. 利益処分計算書

以 上

令和元年度 事業報告書

1-1. 主な取組み

年間利用者数

宿泊利用 46,120人 日帰り利用 41,501人 合計 87,621人

事業の状況

(重点的な取組み)

関係法令を遵守した運営
創意工夫やノウハウを活用し、合理的かつ効率的な業務の実施
施設内外の環境を快適、衛生的に保ち安全な利用をすすめる
インバウンド団体の誘致やパーティ利用による閑散期の利用者数増加
SNSなどを利用した効果的な広報によりフォロワー数増加
シニア層を含む大人向けの事業を企画運営
教育コミュニティづくり推進事業の一環として出前講座の推進

(事業)

主催事業

青少年対象の夏休み長期宿泊体験	2事業
読書活動と結びついた自然体験の推進事業	1事業
自然の中で読書活動推進事業	1事業
課題を抱える青少年への支援事業	1事業

自主事業

ファミリーキャンプ	1事業
ホテル観賞の夕べ	1事業
自然環境・野外活動指導者育成事業	2事業
フォレスト・ジュニア・クラブ(森の学校)	1事業
障がいを抱える青少年への支援事業	1事業
大阪府アドプトフォレスト	1事業
自然の家専属指導者の育成事業	1事業
近隣市町村との連携支援事業	1事業
インターンシップ(就労体験)推進事業	1事業

その他自主事業

初めてのキャンプにチャレンジ	1事業
木の実でジャムづくり	1事業
初めてのダッチオープン	1事業
おとなのための自然体験活動	1事業
子育て応援します「親子のセミナー」	1事業
家族でたき火を楽しもう	1事業
クールジャパン推進企画「コスプレの森」	1事業
出会いの場推進事業「森の婚活」	1事業
開かれた施設としての地域連携	1事業
家族で遊ぼうボードゲーム	1事業

(食堂)

利用者のニーズに合わせた献立作成
閑散期を中心に昼食バイキングを実施
食材の十分な加熱・適切な保管、徹底した安全管理の実施
野外炊飯や補食・夜食のアレルギーや疾病による食事制限、咀嚼・嚥下障がいのある方へのペースト食や刻み食の提供など、要望に応じて対応
謝恩会、懇親会、パーティ食のプランをDMやホームページにて案内
野外炊飯の際、お客様の要望に応じて特別注文の食材の準備

提案による施設の維持及び補修に関する状況

(館内設備)

宿泊棟空調機修理 (1 台)
紙折り機購入
軽自動車納車
バスケットゴール購入 (2 台)
事務所系統空調工事
破損ガラス板入替え (3 枚)
浴場タイル修繕
体育館扉鍵補修
大型ゴミ用物置購入
消火用ホース取替え (1 本)
宿泊棟に備長炭ドライペット設置
浴室ろ過機ろ材交換
事務所用パソコン入替え (10 台)
大研修室空調機取替え
客室用オリジナル毛布購入 (100 枚)
事務所営業用タブレット購入 (1 台)
防火セイフティマーク購入
宿泊 C 棟暖房用温水配管修理
防火水槽ボールタップ取替え
屋内消火栓パッキン取替え (18 箇所)
防火扉整備 (2 箇所)

(食堂設備)

食堂前天井漏水修繕工事
子ども用椅子購入 (3 脚)
厨房製氷機取替え
厨房冷凍冷蔵庫取替え

(野外設備)

倒木処理
登山道点検
粗大ごみ処分
アプローチ道、2 号道路周辺整備
高圧引込電線周囲高枝剪定
野外炊飯施設給湯器修理

ピザ窯整備
野外食器用具洗浄作業
第3炊飯場側溝整備
下駐車場漏水工事
倒木回避のため登山道開設

利用促進に向けた施設サービスの向上に関する提案

利用団体の要望によりプログラムの指導員を派遣
インバウンドの学校交流プログラムの協力依頼
バーベキューガーデン奥貝塚に期間限定で水遊び広場設置
バーベキューやダッチオーブンの新たなメニュー開発
パーティープランの企画提案
子ども会向けの日帰りパックプラン開発

業務委託・保守点検状況

警備保安管理業務
日常清掃業務
ボイラー(空調・温水ヒーター)運転管理業務
専用水道維持管理・汚水処理施設維持管理(毎月所定回数)
遊離残留塩素測定(毎月)
自家用電気工作物保安管理業務(月次および年次点検1回)
消防設備等点検(9月・3月)
空気環境測定(4月・6月・8月・10月・12月・2月)
厨房・食堂害虫駆除(6月・9月・12月・3月)
ガス温水器排ガス測定(6月・12月)
水道立入検査(6月)
汚泥搬出業務(7月・3月)
小荷物専用昇降機検査(7月)
LPガス強制気化装置(ベーパーライザー)点検(7月・11月・3月)
浄化槽検査業務(10月)
浄水場水質検査(11月)
受水槽・高架水槽清掃(12月)
灯油地下タンク漏えい検査(1月)
特別清掃(2月・3月)
建築設備点検(2月)
防火設備点検(2月)
公用車6か月毎点検
ゴミ回収業務(週3～6回)
敷地内除草業務(10月・1月)
温水ヒーター(ボイラー)点検(毎月)
自賠償保険・見舞金制度加入(4月)
施設・設備補修業務、物品修理業務、施設管理用物品購入業務、植栽・山林管理業務、野外施設等保守点検業務(以上、随時)

1-2. 主な取組みに対する総括・自己評価

今年度は、平成から令和に代わる改元年となり利用促進の好機と捉え、新規顧客の獲得、リピーター獲得と予約のキャンセル防止に取り組んだ。

上半期の4月末～5月は、改元に伴う大型連休を活用し常設テントを用意し「初めてのキャンプ」を実施した。利用の気軽さから好評で期間中、大いに賑わった。7月は、前年度まで利用が低迷していたが、アスレチック場を再整備したことが功を奏したのか幼稚園等の利用の回復傾向が見受けられた。8月～10月は、台風の影響で約24団体、宿泊と日帰りを合わせて800人近いキャンセルに見舞われた。特に超大型台風19号の接近は前年の施設被害も想定して、予め団体へはなるべく早めに連絡し、日程変更をお勧めするなどきめの細かい対応を行った。

下半期の10月、11月は、「天皇陛下ご即位の大礼」、オープンデー初の入場者数1000人越え等、利用増加の兆しがあった。閑散期対策として、スポーツ団体、体育館施設等へダイレクトメールや電話営業などを実施し、「コスプレの森」や「親子で焚き火を楽しもう」など、これまで施設の特性を生かした事業を展開したことが効果的であり焚き火事業は3月1回実施した。

バーベキュー場の利用促進を図るため、「初めてのダッチオープン」シリーズの新メニューを企画し3回実施した。家族だけではなく友人やシニアグループなどの参加もあり、新たな客層の利用にも一役買った。前年度に続き、大人・青年向けの事業を実施し、あらゆる年代が利用できる親しみやすい施設づくりに邁進した。

食堂では、野外炊飯や補食・夜食を含めアレルギーや疾病による食事制限、咀嚼や嚥下障がいのある方へのペースト食や刻み食の提供等の他、利用者にはアレルギー対応食の情報の提供等きめ細かな対応を行っている。食事提供については、パーティープランの企画提案、利用者の要望に応じたメニュープランを取り組み提供できるようにした。

「バーベキューガーデン奥貝塚」の利用促進のために、前年度に続き水遊び広場設置、バーベキューやダッチオープンの新たなメニュー開発などを行った。

施設の改修・改善は、「大研修室空調機取替え工事」「食堂冷凍冷蔵庫取替え工事」など利用者からの要望に優先順位をつけて実施した。

登山道の整備や野外施設の補修は、技師が中心になり作業をすることで経費節減と施設保全を両立して実施した。

第4四半期2月後半～3月に発生した新型コロナウイルス感染症拡大により施設が休館する事態となった。3/21から再オープンする予定であったが、感染拡大による影響から休館を継続することとなった。(令和2年度4月7日に緊急事態宣言発出、5月6日までの予定)

2-1. 事業実施状況

		事業名	自主/ 主催	指定 管理 者カ ウン ト	実績		荒天 によ る中 止人 数な ど	備考
					日	宿		
4月	4/6	プログラム体験会	自主	日	日	2		
5月	4/27-5-3	初めてのキャンプにチャレンジ	他事	宿	宿	271		83 家族
6月	6/2	コスプレの森①	他事	日	日	2		
	6/7-9	ホテル観賞の夕べ	自主	日	日	55	19	16 家族 (7日は雨天の為中止 5家族)
	6/18-19	ツリーイングクライマー資格認定講習会 T3	自主	宿	宿	延期	2	最少催行数至らず 2/29-3/1 延期
	6/22-23	フォレストジュニアクラブ①	自主	宿	宿	24		
	6/29	木の実でジャムづくり	他事	日	日	31		10 家族
7月	7/20-21	フォレストジュニアクラブ②	自主	宿	宿	24		
8月	8/1-4	中高生チャレンジキャンプ	主催	宿	宿	8		
	8/11-17	こどもワイルドキャンプ	主催	宿	宿	22		
	8/31	おとなのえんそく①	他事	日	日		11	河川増水の為中止
9月	9/7-8	フォレストジュニアクラブ③	自主	宿	宿	24		
	9/15-16	秋のファミリーキャンプ	自主	宿	宿	47		14 家族
	9/22	親子 de しぜんのようちえん①	他事	日	日	37		12 家族
	9/29	森の婚活	他事	日	日	5		
10月	10/5-6	コスプレの森②	他事	日	日	12		
	10/13	乗馬体験と臨床動作法	自主	日	日	延期	39	台風の為、2/24に延期(14F39人)
	10/20	森の絵本作り	主催	日	日	延期	3	最少催行数至らず 3/1に延期
11月	11/4	ゆったりウォーク	他事	日	日	1076		
		えほんのひろば	主催	日	日	220		
	11/16	第16回大阪府アドプトフォレスト	自主	日	日	67		19 家族
	11/17	おとなのえんそく②	他事	日	日	6		
	11/23	課題を抱える青少年への支援事業	主催	日	日	12		
	11/23-24	コスプレの森③	他事	宿	日	23		
宿			日	10				
12月	12/7-8	フォレストジュニアクラブ④	自主			24		
	12/7-8	コスプレの森④	他事	宿	日	26		
					宿	3		
					日	6		
	12/14-15	ツリーイングクライマー資格認定講習 T-1	自主	宿	宿	2		
	12/15-16	ツリーイングクライマー資格認定講習 T-2	自主	宿	宿	2		
12/22	初めてのダッチオープン①	他事	日	日	36		8 家族	

1月	1/11-12	PLT ファシリテーター養成講座	自主	宿	宿	6		
	1/11-12	フォレストジュニアクラブ⑤	自主	宿	宿	23		
	1/12	たき火を楽しもう①	他事	日	日	29		
	1/18	家族で遊ぼうボードゲーム	他事	日	日	25		8家族
	1/19	親子 de しぜんのようちえん②	他事	日	日	15		
		たき火を楽しもう②	他事	日	日	95		
	1/25	コスプレの森⑤	他事	日	日	4		
		初めてのダッチオープン②	他事	日	日	26		6家族
2月	2/1-2	自然の家専属指導者の育成事業	自主	宿	宿	13		
	2/2	たき火を楽しもう④	他事	日	日	135		
	2/9	たき火を楽しもう⑤	他事	日	日	141		
	2/15	初めてのダッチオープン③	他事	日	日	24		5家族
	2/15	コスプレの森⑥	他事	日	日	10		
	2/16	たき火を楽しもう⑥	他事	日	日		15	雨天の為中止
	2/22	おとなのえんそく③	他事	日	日	3		
	2/23	たき火を楽しもう⑦	他事	日	日	142		
	2/24	乗馬体験と臨床動作法 (10月延期分)	自主	日	日		56	コロナウイルス拡大防止の為中止 20家族
	2/29	絵本でいただきます①	主催	日	日		32	コロナウイルス拡大防止の為中止 10家族
3月	2/29-3/1	ツリーイングクライマー資格認定講習 T-3 (4月日程延期分)	自主	宿	宿	3		
	3/1	絵本でいただきます②	主催	日	日		51	コロナウイルス拡大防止の為中止 16家族
	3/1	たき火を楽しもう⑧	他事	日	日	73		
	3/7-8	フォレストジュニアクラブ⑥	自主	宿	宿		24	コロナウイルスによる 緊急事態宣言発令の為中止
	3/8	たき火を楽しもう⑨	他事	日	日		56	コロナウイルスによる 緊急事態宣言発令の為中止
不定期		教員の為の野外活動教室	自主	日	日	0		
		おおさか元気広場 出前講座	自主	日	日	327		10回実施
		シルバー生涯学習 DAY	他事	日	日	0		
		インターンシップ (就労体験) 推進事業	自主	日	日	11		
合計	24事業 54回 (宿泊、日帰り)					3248		
内訳	主催事業		4	事業		262		
	自主事業		10	事業		654		
	その他事業		10	事業		2332		

2-2. 事業に関する総括・自己評価

令和元年度に自然の家で実施した事業は計 24 事業 54 本（宿泊 17 本、日帰り 37 本）。参加者総数は 3248 人で昨年度より 632 人の増となった。（うち 2 事業が最少催行に至らず延期の為参加できなかった方が 5 人、4 事業が荒天のために中止で 84 人、6 事業が新型コロナウイルスの影響で中止となり 275 人が参加できなかったがそれらを含めると 3612 人の申込数となる）

児童対象事業の「フォレスト・ジュニア・クラブ（1泊2日）」は全 6 回実施した（うち 1 回は新型コロナウイルスの影響で中止）。例年同様、募集開始と同時に満員・キャンセル待ちとなった。アンケート評価は、キャンプ前と後で参加者自身の成長につながっているという感想が多く寄せられた。

青少年対象の夏休み長期宿泊体験「子どもワイルドキャンプ（6泊7日）」は、異年齢の男女混合グループで過ごすことで心身ともに成長を促すことのできる内容。プログラムはツリーハウス作り、炊飯活動、登山などを行いながら仲間づくりと人間関係の構築に効果が見られた。「中高生チャレンジキャンプ（2泊3日）」は、「子どもワイルドキャンプ」を卒業したリピーターが中学生になり参加者として応募をしてくれるため良い循環ができて、ほぼ定数が集まった。生活の為の野外技術取得と活用を中心に活動を行った。

ゴールデンウィーク期間に併せて行った「初めてのキャンプにチャレンジ」は 4 月 27 日から 5 月 3 日までの期間で行い、83 家族 271 人の参加を記録する盛況ぶりであったが、各家族への対応をフリープランとしたため、スタッフが対応に追われるシーンもあり、今後の改良点を見出すことができた。「親子 de しぜんのようちえん」は今年度 2 階行だったが、問い合わせも多くあり、保護者が願う幼児期からの環境教育、自然体験活動の高まりを感じさせる。今後も需要は伸びていくと考える。

「森の絵本作り」はここ数年参加者数が減少し伸び悩んでいたが、方向性を変え、絵本を通したストーリーと食育を合わせることで誕生した「絵本でいただきます」に切り替えたところ、参加者が急増。定員 30 人枠の所に倍の応募数があり、回数を 2 回に増やすこととなった。残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止となったが、申込数から判断するに、企画としては非常に魅力的なものになった。

同じく、食と野外活動を合わせた「初めてのダッチオープン」も全 3 回シリーズで行ったが 19 家族 86 人の参加と好調であった。参加者アンケートには次年度への期待も書かれている。

新規で行った「家族で遊ぼうボードゲーム」では昨今のボードゲームブームを取り入れ、地域のボードゲームショップに協力を仰ぎ、協働することで開催に至った。結果として 8 家族 25 人の参加があり、携帯アプリやテレビゲームにはない、家族や参加者同士での交流を生むことができたと多くの声をいただくことができた。

大人を対象とした「おとなのえんそく」では、年齢の上限を取り払い、シルバー世代も加えることで、よりアクティブに活動したい大人を取り込むことができた。内容は昨年人気であったシャワークライミングとツリーイング、新たに健康増進を取り入れた体操を加え行った。（シャワークライミングは荒天の為中止となった）

「コスプレの森」は、全 6 回で 101 人。昨年度より 40 人の参加が減となっているが、代わりに一般利用としてのコスプレ利用が定着している。コスプレイヤーの活動を紹介し

ているコスプレイヤーズアーカイブ (https://www.cosp.jp/event_place.aspx?id=3837) の全国ランキングで 51 位の高評価 (令和 2 年 3 月付) となっている。

指導者講習会は、社会人や大学生を対象とした、「ツリーイングクライマー資格講習会」と、「プロジェクトラーニングツリー指導者講習会」を実施。全員が資格取得をすることができた。今年度はツリーイングに関しては、さらに上級コースを用意し、参加者がよりステップアップできるように内容を充実させた。

「臨床動作法と乗馬体験」は子どもゆめ基金の助成金を活用して知的障害児とその家族を対象に開催予定であったが、台風接近に伴い延期 (参加予定 14 家族 39 人)、延期後の 2 月も新型コロナウイルス拡大防止の為に中止とした (20 家族 56 人)。内容は、臨床動作法を学びつつ親子のボディコミュニケーション、また馬場でのエサやり、曳き馬体験などを通して、「豊かな心」を醸成する活動を行う予定であった。

自然の家の施設開放と地域連携を目的とした「オープンデー」は共催団体が抜け、(貝塚市立たわわの里と共に開催) 奥貝塚ゆったりフェスタとした。開催内容は例年通り、ツリーイングなどのプログラム体験会、キッズサーキットや夏の児童キャンプ写真展を開催、特設ステージでは事前に自然の家の利用者へ出演を募集し、有志の団体が楽器演奏やダンスなどを披露した。同時開催に行った「森の読書会」も盛況で、「オープンデー」も合わせて今年度は極めて天候もよく、昨年に続き、1000 人を超える来場者数となった。

事業の実施にあたっては、大学生・社会人専属ボランティアが、職員指導の下でプログラム支援を行った。また、大学生のインターンシップを積極的に受け入れ、事業などにリーダーとして参加することでスキルアップを図った。

事業の広報はホームページや広報誌をはじめ、大阪府の広報媒体にも掲載を依頼した。Facebook やインスタグラムなどの SNS や Line など新たなメディアの活用も始めている。

3-1. 収入実績

施設総収入額

(1) 宿泊等部門

67,902,436 円

項目	計画	実績
利用料金収入	52,990,350円	42,423,905円
事業収入他	25,216,060円	25,478,531円
総収入	78,206,410円	67,902,436円

(2) 食堂等部門

85,971,991 円

項目	計画	実績
食堂料金収入	104,626,920円	85,971,991円
事業収入他	なし	なし
総収入	104,626,920円	85,971,991円

(3) 府管理運営委託料

56,419,390 円

(4) 管理運営業務契約書第34条に基づく協議による大阪府負担金

3,375,726 円

3-2. 収入に関する総括・自己評価

宿泊団体減、新型コロナウイルス感染症によるキャンセルのため、食事の売り上げが大幅に減少し、目標数を大きく下回る結果となった。下半期には閑散期対策として、食事摂取や食材提供につながる事業の実施を行なうなど、利用推進に努力したが、計画には届かなかった。ただ、広報に力を入れたパーティの利用は好調であり、今後に期待できる。

4-1. 損益計算表

(1) 総括損益計算書

項 目	金 額
宿泊部門総収入 ①	71,278,162円
食堂部門総収入 ②	85,971,991円
管理運営委託費 ③	56,419,390円
施設総収入 ④	213,669,543円
宿泊部門総支出 ⑤	131,940,231円
食堂部門総支出 ⑥	85,845,236円
施設総支出 ⑦ (⑤+⑥)	217,785,467円
損益 ⑧ (⑦-④)	-4,115,924円

(2) 部門別損益計算書

項 目	合計	総収入 対比率	宿泊等部門	食堂等部門
利用料金収入 A	42,423,905円	19.9%	42,423,905円	
食堂収入 B	84,635,634円	39.6%		84,635,634円
事業収入他 C	20,338,836円	9.5%	20,338,836円	
自主事業収入 D	4,497,515円	2.1%	4,497,515円	
自主事業収入 (バーベキュー場運営) E	1,978,537円	0.9%	642,180円	1,336,357円
管理運営委託費 F	56,419,390円	26.4%	56,419,390円	
※ 大阪府負担金 G	3,375,726円	1.6%	3,375,726円	
総収入 H (A~G合計)	213,669,543円	100.0%	127,697,552円	85,971,991円

※ = 管理運営業務契約書第34条に基づく協議による大阪府負担金

事業費用 J	合計	100.0%	131,940,231円	85,845,236円
人件費	103,351,258円	47.5%	72,290,262円	31,060,996円
光熱水費	23,191,408円	10.6%	14,951,509円	8,239,899円
消耗品費	3,137,220円	1.4%	1,374,838円	1,762,382円
宣伝費	528,649円	0.2%	528,649円	0円
原材料費	51,468,209円	23.6%	11,023,204円	40,445,005円
修繕費	340,769円	0.2%	340,769円	0円
手数料	131,586円	0.1%	131,564円	22円
委託料	12,092,403円	5.6%	12,092,403円	0円
公租公課費	8,297,505円	3.8%	5,637,197円	2,660,308円
賃借料	3,248,985円	1.5%	3,248,985円	0円
施設整備費	3,220,544円	1.5%	2,510,544円	710,000円
その他	3,700,339円	1.7%	3,193,433円	506,906円
自主事業に係る経費	5,076,592円	2.3%	4,616,874円	459,718円
損益 (H-J)	-4,115,924円		-4,242,679円	126,755円

うち投資額 バーベキュー場リース	1,860,012
------------------	-----------

4-2. 損益に関する総括・自己評価

繁忙期の学校団体数、団体人数の減、熱中症対策としての夏季利用控えなどが響き、利用料および食堂収入が減となった。下半期の利用は当初順調であったが、2、3月は新型コロナウイルス感染症による減が大きく影響した。一方、事業収入等は、広報の効果などにより昨年よりも増収となった。修繕および施設整備は、製氷機やパソコンの更新、利用者アンケートに基づき寝具の更新などを行った。購入や修理の際には相見積もりに比較や仕様を十分検討した。できる限り支出を抑えた。新型コロナウイルス感染症の影響による利用のキャンセル、および感染拡大防止のための休館もあり、最終損益は-4,115,924円となり、予算を下回り赤字となった。

5-1. その他の実績（従業員研修、個人情報保護及び情報公開体制等）

職員研修

事業所内での研修に加え、外部の研修会や青少年教育施設が主催する研修、情報交換会、実践発表などにも積極的に職員を派遣し、知識の習得とスキルアップを図った。

4月27日	(公財)大阪ユースホステル協会 新入職員研修	1名
4月21日～22日	近畿地区青少年教育施設協議会総会 (堺市立日高少年自然の家)	1名
4月22日～23日	近畿地区青少年教育施設協議会基本研修会(同上)	1名
5月24～26日	体験活動安全管理研修(国立那須甲子青少年自然の家)	1名
6月11日、20日	衛生講習会(貝塚市コスモシアター)	4名
8月30日	給食研究会合同講演会	3名
9月27日	岸和田保健所立ち入り検査	
10月9日	大阪府キャンプ協会キャンプサロン	1名
10月15日	職員研修(マキ組、キャンプファイヤー)	11名
11月8日	大阪府教育庁主催 人権教育地区別セミナー	2名
11月13日	大阪府キャンプ協会キャンプサロン	1名
11月22日	衛生講習会(岸和田市浪切ホール)	2名
11月22日～24日	キャンプディレクター1級研修会	1名
11月28日～29日	全国青少年教育施設所長会議施設研究集会	2名
11月29日～12月1日	キャンプディレクター2級研修会	1名
12月1日	リスクマネジメントセミナー	1名
12月4日	消防訓練、防災講話	16名
12月3日～5日	近畿地区青少年教育施設協議会専門委員会・研修会	1名
12月11日	大阪府キャンプ協会キャンプサロン	1名
12月14日～16日	ツリーイングT-1、T-2資格認定講習	1名
1月16日	(公財)大阪ユースホステル協会職員研修会(人権研修)	12名
1月28日	(一財)大阪府青少年活動財団職員研修会(人権研修)	3名
1月30日	大阪府青年の家等連絡協議会(箕面市立教学の森 野外活動センター)	2名
2月1日～2日	そぶらリーダー研修	16名
2月4日～5日	近畿地区青少年教育施設ユースミーティング	1名
2月16日	森林ESD研修会	1名
2月29日～3月1日	ツリーイングT-3資格認定講座	1名

個人情報の保護等

個人情報取り扱い規程に基づき、入手した個人情報は適切に管理した。

情報公開について

管理運営業務に関する書類を備え置いている。情報公開の請求はなかった。

5-2. その他の実績に対する総括・自己評価

職員のスキルアップや知識向上のため、個々のレベルに合わせて計画的に外部研修会への派遣や自主研修などを行った。特にキャンプディレクターやツリーイング、森林ESDなど、指導系の技術習得を図った。

毎月実施している全体会議の場など、危険回避・安全対策・衛生管理・人権問題に関わる知識について職員の相互理解を深める場を設けている。

衛生管理に関する講習会にはできるだけ参加し、日々衛生管理に努めている。

キャンプ協会主催のリスクマネジメントセミナーに、職員とボランティアリーダーが参した。そぶりだ（自然の家の専属ボランティアリーダー）の研修には外部講師を依頼するなど、リーダーの育成に力を入れた。

人権研修では「外国人の人権」、「子どもの人権」などを学んだ。

個人情報については、事業の申し込み時に、以後の案内送付や写真提供の可否を必ず確認するなど、個人情報保護に努めた。

6-1. 利用者アンケートについて（満足度・改善要望等）

令和元年度 4月～3月分の利用者アンケート集計について

1. 当施設をどのような方法で知りましたか？ ※回答数559件

過去に（以前に）利用して知っていた	72%
ホームページから知った	21%
その他	7%

2. 施設についての満足度(宿泊棟・体育館・研修室・野外活動施設等)※回答数554件

満足	76%
普通	23%
不満	1%

<改善要望>

- 宿泊棟(各部屋)が少しカビ臭い→オゾン発生器を使い、除湿消臭剤を設置した。
- 部屋が寒かった→冬期はファンコンベクターまたはエアコン対応にしている。温度が低い日には受付時に暖房機器の案内や、毛布やひざかけの利用をお勧めしている。また廊下や体育館・ORHなどにはストーブを設置して対応している。大研修室の利きが悪かったエアコンは新しく取換え設置した。
- 体育館半面利用の場合、バスケットゴールが足りない。→バスケットゴールを2台設置した。

※昨年の台風により、登山道に倒木がふさがったため、新たに道を開設した。

3. 食事についての満足度(食堂からの提供食・野外炊飯材料等) ※回答数477件

満足	72%
普通	27%
不満	1%

<改善要望>

- 惣菜が冷たい。→なるべく食事時間に合わせて提供するようにしている。また、冷めても美味しい惣菜を出せるよう試食会等でメニュー検討を随時行な

っている。

※パーティープランの広報等を精力的に取り組んだ結果、11件387名の利用があり、アンケートでもたいへん好評であった。今後も継続する。

4. 職員の対応についての満足度（事前打合わせ・電話対応・利用当日の対応等）※回答数555件

満足 87%

普通 12%

不満 1%

- 多目的広場を利用予定になっていたが、半面でしかもテントを張っていたので、使えなかった。→打合せ時には利用の申し出がなく、当日急に受けたようであったが、今後は打合せ時にしっかりと利用場所・時間の漏れがないように確認をする。

5. 達成度 ※回答数530件

90～100%達成 71%

70～89%達成 26%

50～69%達成 3%

実施したプログラム上位と意見

①野外炊飯145件 ②キャンプファイヤー136件 ③展望台ハイキング58件

- 野外炊飯・・・雨天でぬかるんでいて、作業がたいへんだった。（第3炊飯場）
→第3炊飯場の側溝を作り、雨水の流れを良くした。
- キャンプファイヤー・・・美しい星空も見え、素敵な思い出ができました。
- ハイキング・・・とても風景が良かった。自然の中でゆっくりと気持ちよく最高でした。登山道で危険（道幅・階段）と感じるところがありました。→定期的に点検し、危険と思われる箇所については随時、補修整備を行なっている。

6-2. 利用者アンケートに対する総括・自己評価

昨年度はアンケート回収率90%と過去最高であったが今年度はそれを超え、91%の回収率を達成した。

施設の申し込みは、利用歴のある団体が圧倒的に多いが、今回ホームページから知ったという回答が7%アップした。SNSや外部サイトなどに多く広報を打った効果が出ていると思われる。

施設については、老朽化が原因となる意見もあるため、優先順位をつけながら改修、修繕を進めたい。食事については毎回満足度が高いが、朝食が冷えていたという意見があるので、なるべく食事時間に合わせて提供している。冷めてもおいしいメニューの開発など、改善に努めたい。職員の対応についての不満要因は、事前の説明不足によるものがあるため、どんな時もすべてのスタッフが丁寧な対応ができるように心がけていく。

アンケートで出た意見や要望は全体会議等で話し合い、優先順位を考えて対応している。

7-1. 事故・苦情処理

平成31年度から令和元年度中に事故疾病報告のあった事例は計15件で昨年度から11件減。

内訳は外傷が2件、体調不良や熱発が7件、打撲その他5件、ハチによる被害1件。発生場所は、山登り、ディスクゴルフ、炊飯場など屋外活動中とその前後、体育館での屋内活動中、宿舎や談話室など宿泊棟内、本館食堂などであった。

発生の時期は、5月4件、6月4件、7月5件、8月2件で9月以降の発生は無かった。救急車の要請は4件。

5月は、新学年の宿泊研修中の発生、6月7月は、気候が春から夏へと変わる時期、日中の気温が上昇して体調を崩すことによる事例が多い。

事故・疾病の発生時は、団体責任者と連携して応急的措置をとっている。事前打合せ時では、毒性植物の注意、毒虫や毒蛇・スズメバチ・マダニなどに対する注意の他、滞在中は、雷注意報など気象情報の提供を行い事故予防に努めた。

利用者の安全確保と危険回避については、点検により登山道補修、枯木倒木処理、野外炊飯場など補修整備に努めている。

また毎年、全職員・従業員を対象に普通救命講習・AED講習を実施して有事に備えているが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため開催を自粛した。

7-2. 事故・苦情処理に対する総括・自己評価

事故対策については、定期的な施設内の巡回をおこない、安全管理に努めた。

地震や台風による自然災害では、倒木や路肩崩れが発生しており、職員で処分、修復作業をおこなった。その間、利用者への周知と早期復旧に努めた。台風による登山道の一部が使用できなくなっていた箇所については、撤去が困難なため新たな道を整備した。

苦情については、適切で迅速な対応を心がけている。

8月～10月、台風接近による影響のため、利用者の安全確保と危険回避のため早めに連絡を行い、日程変更などの対応に努めた。

また、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、3/5からの営業自粛休館については、大きなトラブルや苦情には繋がらなかった。また、コロナ感染拡大防止を目的とした利用日程変更の相談について案内を送付(200件)した。

8-1. 利用実績 (管理宿泊部門)

(1) 概要

			備 考
開所日数		332日	
休所日数		34日	
利用日数	宿 泊	251日	
	日帰り	299日	
利用件数	宿 泊	690件	
	日帰り	1113件	
利用人数	宿 泊	46,120人	
	日帰り	41,501人	
一日平均利用件数	宿 泊	2.1件	
	日帰り	3.4件	
一日平均利用人数	宿 泊	139人	
	日帰り	125人	
利用料 金収入 状況 (単位 円)	宿 泊 棟	33,180,045円	
	テ ン ト	633,300円	
	日 帰 り	8,610,560円	
	合 計	42,423,905円	

(2) 利用内訳

区 分		団体数	人 数	備 考	
宿 泊	宿泊棟	634件	未就学	3,152人	
			小学生	12,705人	
			中学生	12,491人	
			高校生	2,271人	
			他学生	4,010人	
			指導者	4,314人	
			他大人	6,245人	
			計	45,188人	
	テント	50件	未就学	69人	
			小学生	187人	
			中学生	35人	
			高校生	223人	
			他学生	43人	
			指導者	60人	
			他大人	315人	
計			932人		
日帰り	1113件	未就学	2,426人		
		小学生	9,440人		
		中学生	12,095人		
		高校生	2,503人		
		他学生	2,970人		
		指導者	4,344人		
		他大人	7,723人		
		計	41,501人		

8-2. 利用実績 (食堂部門)

(1) 概要

			備考
利用人数		39,013人	
売上収入状況	食堂	61,258,523円	
	野外炊飯	17,799,031円	
	その他	5,578,080円	
	BBQ関連	1,336,357円	
	合計	85,971,991円	
一人当たりの売上単価		2,204円	

※利用人数：日帰+宿泊は統計上2名であるがこれを1名とし、2泊以上も統計では泊数が利用人数になるが1名とした。

(2) 区分別食事売上状況

		食数	売上額
食堂	朝食	37,366	18,596,680円
	特別食	360	131,530円
	昼食	17,206	11,105,340円
	特別食	330	215,960円
	夕食	31,815	26,988,430円
	特別食	4,691	2,894,575円
	雑収入	0	279,728円
野外炊飯		28,379	17,799,031円
BBQ食材収入		625	852,657円
販売	弁当	364	236,380円
	補食・夜食	39,084	5,341,700円
BBQ付帯収入		2,440	483,700円
水筒補充用お茶		49,757	1,046,280円
合計		162,660	85,971,991円

※合計食数には、お茶を含まず。(金額にはお茶・雑収入も含んでいます)

(3) 食堂利用実績に対する総括・自己評価

食堂食は、宿泊団体の減少により朝昼夕ともに減少した。食堂の食数合計は昨年の102,880食に対し91,768食。野外炊飯については、昨年の30,422食に対し28,379食。繁忙期の学校団体の減少や新型コロナウイルス感染症による3月の連泊団体がなくなったことが大きな要因である。1月の中国からの修学旅行は4泊を自然の家で過ごすプログラムであったため、全食提供し、食事収入に寄与した。また、今年から本格的に導入したパーティプランが好評で、387名の利用があった。自前の調理スタッフにて運営する強みを生かすことができた。バーベキュー場の食材提供も増えており、閑散期も含めて今後さらに新メニューを導入し、利用増を図る。

9. サービスの安定性評価

(1) 収支

項 目	事業計画	実績	対計画比
宿泊部門総収入 ①	78,206,410円	71,278,162円	91.1%
食堂部門総収入 ②	104,626,920円	85,971,991円	82.2%
管理運営委託費 ③	56,419,390円	56,419,390円	100.0%
施設総収入 ④	239,252,720円	213,669,543円	89.3%
宿泊部門総支出 ⑤	134,459,924円	131,940,231円	98.1%
食堂部門総支出 ⑥	104,349,027円	85,845,236円	82.3%
施設総支出 ⑦ (⑤+⑥)	238,808,951円	217,785,467円	91.2%
損益 ⑧ (⑦-④)	443,769円	-4,115,924円	

(2) 部門別収支

(単位：円)

項 目	事業計画		実績			
	宿泊等部門	食堂等部門	宿泊等部門	対計画比	食堂等部門	対計画比
利用料金収入 A	52,990,350		42,423,905	80.1%		
食堂収入 B		102,970,120			84,635,634	82.2%
管理運営事業の活動系事業収入 C	21,728,060		20,338,836	94%		
自主事業部門の活動系事業収入 D	2,757,700		4,497,515	163.1%		
自主事業部門のバーベキュー収入 E	730,300	1,656,800	642,180	87.9%	1,336,357	81%
管理運営委託費 F	56,419,390		56,419,390	100.0%		
※ 大阪府負担金 G			3,375,726			
総収入 H (A~G合計)	134,625,800	104,626,920	127,697,552	94.9%	85,971,991	82.2%

※ = 管理運営業務契約書第34条に基づく協議による大阪府負担金

事業費用	J	134,459,924	104,349,027	131,940,231	98.1%	85,845,236	82.3%
人件費		67,875,298	28,146,950	69,605,282	102.5%	28,239,263	100.3%
本部人件費		3,237,000	3,237,000	2,684,980	82.9%	2,821,733	87.2%
光熱水費		17,440,000	8,720,000	14,951,509	85.7%	8,239,899	94.5%
消耗品費		2,400,616	2,180,000	1,374,838	57.3%	1,762,382	80.8%
宣伝費		571,160	0	528,649	92.6%	0	
原材料費		13,157,390	56,187,756	11,023,204	83.8%	40,445,005	72.0%
修繕費		2,289,000	1,635,000	340,769	14.9%	0	0.0%
手数料		134,070	-1,199	131,564	98.1%	22	-1.8%
委託料		11,447,180	65,400	12,092,403	105.6%	0	0.0%
公租公課費		6,223,033	2,611,228	5,637,197	90.6%	2,660,308	101.9%
賃借料		3,270,000	11,772	3,248,985	99.4%	0	0.0%
施設整備費		0	0	2,510,544		710,000	
その他		2,734,009	5,450	2,338,729	85.5%	6,880	126.2%
本部事務費		690,000	500,000	854,704	123.9%	500,026	100.0%
自主事業に係る経費		2,991,168	1,049,670	4,616,874	154.4%	459,718	43.8%
損益 (H-J)		165,876	277,893	-4,242,679		126,755	

うち投資額	BBQ場等投資額	3,062,750		1,860,012			
-------	----------	-----------	--	-----------	--	--	--

10. 利益処分計算書

1. 当期末処分利益 A	= (3) - (6)	-5,515,384
収益総額 (1)		213,669,543
自主事業に係る収入 (2)		6,476,052
納付額の根拠となる収入額 (3) = (1) - (2)		207,193,491
支出総額 (4)		217,785,467
自主事業に係る支出 (5)		5,076,592
納付額の根拠となる支出額 (6) = (4) - (5)		212,708,875
2. 大阪府への納付金 B	= A / 2 (マイナスの場合は0円)	0
3. 指定管理者への分配額付金 C	= (1) - (4) - B (マイナスの場合は負担額)	-4,115,924
公益財団法人大阪ユースホステル協会	C × 0.7	-2,881,147
一般財団法人大阪府青少年活動協会	C × 0.3	-1,234,777
4. 時期繰り越し収支差額		0